

新たな手づくり特産品が 固定ファンを獲得

高品種ニジマスの養殖と加工・販売事業

中山間地域の不利を メリットに変えた養殖事業

長野県南西部、木曾路南部に位置する大桑村は、山林が八二%を占める、人口四千八百人の村です。中央を流れる木曾川流域に集落や耕地が点在する急峻地です。この不利な地理的条件を逆に地の利としているのが田澤養鱒場です。

創業と発展

困難な船出と不断の努力

昭和四年、初代田澤重市(しげいち)さんが養鱒事業を開始、五年に及ぶ試行錯誤と国の指導により、昭和十年頃から、臭みが少なく味も淡泊で肉感のある、市場価値の高いマスを安定して養殖できる技術を開発しました。自らの食料の確保さえ困難な第二次世界大戦中もエサを与え続け、戦後は、全国各地の養鱒技術の指導にも情熱を

注ぎました。この指導が産業復興に貢献したと認められ、昭和三十一年には黄綬褒章も受けています。

新商品の開発

独特の臭みを消す

二代目(れいぞう)・儀子(のりこ)夫妻はマスの加工・販売事業に挑戦、現在では、加工商品「ますのうの花漬」が大桑村の新たな特産品として広がっています。



田澤夫妻と藤原さん

事業概要

名称：田澤養鱒場
住所：長野県木曾郡大桑村須原78番地
設立：昭和2年
従業員：2名(田澤夫妻と合わせて4名で操業)

ります。

ニジマスの切り身を酢と砂糖で味付けし、鶏卵を加えたおから(うの花)であえて色付けした「うの花漬」は、植物繊維が多く栄養バランスも優れています。着色料、保存料を使わない手づくりであることも大きな特徴です。昨年度は、四千品目集まる日本最大級の物産展「電気ふるさとしまん市」で大賞を受賞しました。



心しました。法事での試食会で専門家から好評を得たことが売り出す勇気を与えました。しかし、手づくりゆえ手間暇がかかり、従業員一人を加えた四人では、利益を上げるだけの量を加工することは困難でした。利益を確保できるようになったのは、大きく成長したマスであれば作業効率があがることに気づいてからです。



商品

販路の拡大

行政の支援で販路拡大

「ますのうの花漬」の最大の魅力はマス自体の美味しさにあります。田澤養鱒場は標高一八六七メートルの糸瀬山のふもとにあり、中央アルプスの水に恵まれています。純度が高くミ



水源近くの沢

ネラル成分を豊富に含んだ湧き水で育まれたニジマスは、他産地では真似のできない淡泊な味に育ちます。地元の「道の駅」から販売を始めた当初は、ほとんど売れませんでした。酢漬では、臭みが取りきれないかと消費者に敬遠されたためと考えました。

この時期に粘り強く支援したのが商工観光係長の藤原寿広(しげひろ)さんをはじめとした役場の方々です。地産地消を狙いとした、村内有線放送によるPRや各種物産展への出品など、生産者だけでは手が届かない販売活動の支援がなされました。転機が訪れたのはこのときです。村の支援により、長野県地域フォーラムに「うの花漬」を出品した際、大好評を得、NHK出版の雑誌『男の食彩』連載記事の「全国うまいもの名鑑」で取り上げられたのです。

今では五十人以上の固定ファンを獲得し、安定した売上(年商約千二百万円)に結びついています。

事業の成功要因

成功要因は、次の五つです。

要因1 ミネラル成分豊かな水
ミネラル成分豊かな中央アルプスの水という地域資源に注目し、差別化を図ることで商品の優位性を確保していることです。

要因2 消費者の視線での発想
「出荷しやすいものづくり」ではなく、消費者の立場にたった「食欲をそめるものづくり」がなされていることです。

要因3 手づくりに徹した生産
質の維持を図るため、手づくりに



養鱒場

貫き、固定ファンの獲得に結びつけていることです。

要因4 顔が見える顧客対応
物産展開催の際は、すべて手書きのダイレクトメールを送り、手づくり感や素朴さを伝えていくことです。

要因5 販売に対する行政支援
村の新たな特産品にしようと、行政や村の人々から各種物産展の紹介や出展申込等の応援を得たことで、ダイレクトメールには、役場から提供された村の絵葉書を使用しています。

今後の展望

規模拡大より品質維持

「昔であれば、マスの原産地など気にすることもなかったのですが、近年の食の安全性に対する意識が非常に高まってきています」と儀子さんが話すように、食の安全を第一と考え



物産展

国からの注文も相次ぎ、事業を拡大することも可能ですが、手づくりの味を提供し続けるため、従来からの従業員四人体制を維持しています。四人での手作業では、年間に十トンのマスを加工することが限界です。しかし、この規模だからこそできる手づくりの味に、固定ファンはついてきています。よそのマスの塩焼きを孫に食べさせたとき、「いつもと違う」といって食べ残していたことを思い出しながら、「特に子供の意見は大事にしたい」と話しています。これからも自分たちの食事から発想することで、新たなマスの味を食卓に届けてくれることでしょう。

平成14年度 電源立地促進功労者表彰



第二十一回電源立地促進功労者表彰が、一月八日、内閣総理大臣官邸で行われました。この表彰制度は昭和五十六年に設けられ、電源立地に特に功労があった地方公共団体の長などを、内閣総理大臣および経済産業大臣が表彰するものです。

平沼起夫経済産業大臣は冒頭の式辞で、わが国のエネルギー政策の基本目標は、環境安全や効率化の要請に対応しつつ、安定的な供給を確保していくことにあり、これを実現

するためには、省エネルギー対策への一層の取り組み、新エネルギー導入への積極的な取り組みと同時に、それぞれの電源特性を踏まえ、最適な構成を目指した電源立地を着実に推進していくことが必要不可欠であること、原子力発電に対する国民の信頼を大きく損なう事件に対し、事実の徹底的な解明と情報提供に努めるとともに、抜本的な再発防止策を構築して原子力への信頼回復に全力を傾注することを述べました。

小泉内閣総理大臣は、エネルギーは現代の経済社会を支える大切な基盤の一つであり、安定的な電力供給を確保していかなければならないこと、原子力発電所に関する事件は大変残念なことではあるが、原子力発電を含む電源立地の必要性は変わらず、再発防止に努め、国民の信頼回復に全力を尽くすことを述べるとともに、卓越した指導力をもって、地域生活と調和のとれた電源立地に尽力した二人の方々に敬意を表するとの挨拶がありました。表彰式終了後には、表彰受賞者の家族を交えての記念撮影が行なわれました。



小泉内閣総理大臣と平沼経済産業大臣を中央に記念撮影。黄色いリボンの方が受賞者。前列左から清水ご夫妻、田嶋ご夫妻。

平成14年度の表彰受賞者

内閣総理大臣表彰受賞者 該当者なし
 経済産業大臣表彰受賞者 (2人)
 前茨城県ひたちなか市長 清水 昇(しみずのぼる)さん 東京電力㈱常陸那珂火力発電所
 熊本県苓北町長 田嶋 章二(たじましょじ)さん 九州電力㈱苓北火力発電所

電気のあるさとじまん市 過去最高の出展数に沸く 幕張メッセでのふるさと交流

電源地域の特産品や郷土芸能を一堂に集め、首都圏の人々に広く紹介し、特産品の販路や交流人口の拡大を図り産業振興を支援することを目的として、第十三回「電気のあるさとじまん市」が(財)電源地域振興センターの主催により、十一月二十二日金から二十四日日まで千葉県の幕張メッセで開催されました。

三日間で十四万人を超える来場者でにぎわった今回は、過去最高の二百一十八市町村が出展しました。

また、最終日には「じまん市大賞」が決定されました。今回は、四十六産品のエントリーがあり、北海道伊達市の「カルヴァウォッシュチーズ」が大賞に選ばれ、表彰されました。



じまん市大賞表彰式と、大賞の「カルヴァウォッシュチーズ」



来場者で賑わう会場風景

仙台で「電気のあるさとじまん市 仙台」を開催します



昨年度は福岡県福岡市で開催

平成十五年一月十四日金から十八日火の五日間、仙台市の藤崎本館七階催事場で、電源地域振興センター主催で「電気のあるさとじまん市 仙台」を開催します。入場無料です。

この物産展は、電源地域の特産品を販売・アピールすることを目的に毎年一度、各地の主要都市を選定して開催しているもので、今回が十回目になります。北海道から沖縄までのさまざまな電源地域市町村が出展を予定しています。皆様のお越しをお待ちしております。

お問い合わせ
 (財)電源地域振興センター
 産業育成部 販売支援課
 TEL.03-5562-9810
 E-Mail hansoku@div.dengen.or.jp

■日程 1月29日(水)~31日(金)

日	プログラム	会場	開始時刻
29日(水)	開会式 講演会(大林重徳氏)	金武町立体育館	16:00 16:45
30日(木)	地域振興事業検討会	広域行政・産官学連携に向けた住居形成プロセス検討会	伊豆公会議 9:30
	地域振興事業検討会	地域経営検討会	並根公民館 9:30
	地域振興事業検討会	観光産業検討会	藤原公民館 9:30
31日(金)	パソコンプレゼンテーション実習コース	金武町立中央公民館 視聴覚教室	9:30
	施設見学会	各見学施設	9:30

2002年度エネルギープラザ 1月29日開催

一月二十九日(水)から三十一日(金)まで、沖縄県金武町で、2002年度エネルギープラザ沖縄・金武町が開催されます。電源地域の関係者が一堂に会する年に一度の大イベントです。

主催 金武町(財)電源地域振興センター
 後援 経済産業省資源エネルギー庁/内閣府沖縄総合事務局/沖縄県